

平成18年度 薬学研究科修士課程選抜入学試験問題

科目番号	科目名	問題枚数	受験番号	氏名
21	臨床薬物動態学 (TDM部門)	No. 1 1枚		

以下の設問について、記述が正しい場合には○を、誤りの場合には×を解答欄の（ ）に記載しなさい。

- 問1 TDM は、Therapeutic Drug Monitoring の略語である。
 問2 TDM の目的は薬物血中濃度を有効濃度範囲に入れることである。
 問3 わが国ではリチウム製剤投与後の血中濃度測定が診療報酬に初めて適応された。
 問4 シクロスポリンの血清中濃度は、効果・副作用と関連する指標である。
 問5 投与後2時間のジゴキシン血中濃度が 3.0 ng/mL (μg/L) であったので減量を薦めた。
 問6 バンコマイシンの血中濃度測定のため採血は、点滴開始直前と点滴終了後 1～2 時間に行う。
 問7 バンコマイシンは、緑膿菌感染症に有効なアミノグリコシド系抗生物質である。
 問8 ゲンタマイシン血中濃度のトラフ値（最低値）が 2 μg/mL (mg/L) を超えると腎障害の発生頻度が高まる。
 問9 ゲンタマイシンは、MRSA 感染症に有効なグリコペプチド系抗生物質である。
 問10 維持投与量の計算には、全身クリアランス (CL_{tot}) を用いる。
 問11 維持投与量の計算には、分布容積 (V_d) を用いる。
 問12 フェニトインの1日投与量と血中濃度は比例する。
 問13 フェニトインの血中濃度の治療域は、10～20 μg/mL (mg/L) である。
 問14 フェニトインの血中濃度は、血清アルブミン濃度が低下すると上昇する。
 問15 高齢者のクレアチニンクリアランスは、若年者より低値である。
 問16 Cockcroft-Gault 法は、薬物の肝クリアランスを推定する方法である。
 問17 骨髄抑制は、メトトレキサート血中濃度の関連する副作用である。
 問18 メトトレキサートは、てんかんの治療に用いる TDM 対象薬である。
 問19 ハロペリドールは、統合失調症に用いる TDM 対象薬である。
 問20 テオフィリンは、主に腎臓から排泄される。
 問21 テオフィリンの血中濃度は、フェニトインを併用すると低下する。
 問22 テオフィリンは、気管支ぜん息治療に有効なアドレナリンβ₂受容体遮断薬である。
 問23 プロカインアミドでは、代謝過程において、遺伝的多型の影響がある。
 問24 プロカインアミドの代謝物には薬理活性がない。
 問25 プロカインアミドは、免疫学的機序による副作用の原因となる。
 問26 プロカインアミドは、局所麻酔薬である。
 問27 メキシレチンは、不整脈の治療に用いられる TDM 対象薬である。
 問28 免疫学的測定法は、生体内成分の影響を受けない特異的測定法である。
 問29 リチウム濃度の測定には、高速液体クロマトグラフィーが用いられる。
 問30 臨床におけるアミノグリコシド系抗生物質の投与設計は、母集団パラメータと 1～2 点の薬物血中濃度の測定値から推定した患者の薬物動態パラメータを用いて行われている。

解答欄

問1 ()	問11 ()	問21 ()
問2 ()	問12 ()	問22 ()
問3 ()	問13 ()	問23 ()
問4 ()	問14 ()	問24 ()
問5 ()	問15 ()	問25 ()
問6 ()	問16 ()	問26 ()
問7 ()	問17 ()	問27 ()
問8 ()	問18 ()	問28 ()
問9 ()	問19 ()	問29 ()
問10 ()	問20 ()	問30 ()

採点	
----	--

[]